

第14回全国高等学校情報教育研究会全国大会（大阪大会）

大阪府立三国丘高等学校教諭 北野 堅司

1. はじめに

第14回全国高等学校情報教育研究会全国大会（大阪大会）は「新学習指導要領に向けて～大学入学共通テストを見据えた教科情報とは～」をテーマに、2021年（令和3年）8月10日（火）、11日（水）の2日間にわたり開催した。新型コロナウイルス感染症対策のため、2年連続のオンライン開催となったが、新学指導要領の実施、大学入学共通テストの新科目「情報Ⅰ」の正式決定等、教科情報にとり非常に重要な時期となり、全国から例年を上回る426名もの方に参加申込をいただくことができた。

2. 第14回大阪大会の概要

2.1 開会行事

大阪府高等学校情報教育研究会会長（第14回大阪大会実行委員長）・大阪府立茨木西高等学校校長 覚前潔氏の言葉で開幕。続いて全国高等学校情報教育研究会会長・東京都立田園調布高等学校校長 福原利信氏の挨拶をいただいた。

2.2 後援団体・協賛団体・企業展示

今回の大会では合計10件のご後援と、合計25件の協賛をいただいた。例年の企業展示のかわりに、後援、協賛の団体・企業等からご提供いただいた動画を、大会期間中に随時配信した。

2.3 分科会発表

今回の大会ではポスターセッションは行わず、口頭発表（リアルタイム）と動画発表（オンデマンド）の2形式で発表した。

2.3.1 口頭発表（リアルタイム）

口頭発表は、大会初日に3つの分科会に別れて実施した。ウェビナー形式で行われ、質疑応答も

あり参加者間での交流も活発であった。

分科会1

テーマ「プログラミング」

1	アプリ開発でアイデアを形に ～情報Ⅱ「(4)情報システムとプログラミング」 を見据えた授業実践～
2	ゲームのUI改善を通して学ぶユーザビリティ ～プログラミングで学ぶ情報デザイン～
3	フォームを利用した簡易ジャッジシステムによる プログラミング演習およびコンテストの活用 について
4	問題解決、情報デザイン、プログラミング、 データ分析を横断的に扱えるビクトグラム制作 実習の実践事例報告
5	「難しいけど楽しい」を目指したプログラミン グ授業の実践～Google Colaboratoryを用いた Python学習教材の作成～
6	GASを利用したLINEBOTの作成（Webマーケ ティング～地域商店のLINEBOTを作成する～

分科会2

テーマ「授業実践および評価・カリキュラム関連」

1	Peirceの探究段階論に基づく「情報Ⅰ、Ⅱ」の 授業設計
2	情報Ⅰにおける問題解決学習とOfficeアプリの 活用～どうする？生徒の苦手な「パソコン」の 授業～
3	オンライン学習に向けた各校の取り組み状況 （報告）
4	情報科におけるハイブリッドな学び ～オンデマンド教材の活用とその可能性～
5	Google Sitesを活用したオンライン学習支援
6	主体的な学びを促す形成的評価の実践

分科会 3

テーマ「データの活用・高大連携（入試）」

1	文書作成ソフトでできる情報デザイン 情報デザインの授業計画の検討
2	情報教育の高大接続の課題 ～名古屋文理大学の入試をベースに考える～
3	表計算アプリで実感するデータベースの考え方の必要性
4	「情報Ⅰ」教科書でのデータサイエンスの扱いについて
5	大学1年生（2020年度）の高校在籍時における教科「情報」の履修意識に関する調査
6	大学入学共通テスト「情報」試作問題・サンプル問題と教科書から考察する「情報Ⅰ」

2.3.2 動画発表（オンデマンド）

今回の大会では、参加者が発表動画を自由に選択・視聴できる形式とした。

1	高等学校におけるAIを学ぶ教材の開発と授業実践 ～教材はどのようなものが必要か？～
2	大学入試を見据えた教えないプログラミング教育 ～応用力の育成を考慮したプログラミング教育～
3	「情報Ⅰ」が始まる前に
4	コロナ禍で沸き上がったフェイクニュースの問題を探究する ～SNSトラブル解決に向けて熱中して学ぶ～
5	オンライン授業での協働学習 ～GIGAスクール構想の1人1台端末を活用した学び～
6	可視化で超速攻指導！実験付き統計・分析指導 ～表計算ソフトウェア活用で時短実現～
7	超速攻指導！実験付き「AD変換」とバイナリデータ・拡張子 ～バイナリデータ確認実験と圧縮～
8	共通テストに対応したプログラミングの単元案とその評価
9	フィッシングサイトの体験
10	プログラミングの活用を見据えた教育用マイクロコンピュータとソフトウェアの比較検討
11	空中ディスプレイを利用したコンテンツ制作の可能性～授業実践・情報Ⅰを見据えて～

12	擬似広告制作活動を通じた情報デザインの実践
13	情報モラルも一緒に考える双方向通信の授業案 ～中学生の学びを体験するの巻～
14	情報Ⅰ×探究の検証：データ分析から問を生み出す ～情報Ⅰ探究の3単位で展開するハイブリッドな学び～
15	課外授業 DTM・MTR創作体験を通じたシーケンス、MIDIの構造及び楽理理解 ～音楽の構造と情報の接点およびデザイン～
16	micro:bitを用いた情報活用能力の育成における形式的アセスメントの検討
17	情報ⅠとGIGAスクールの同時スタートに向けて ～情報科の授業はPC教室から飛び出そう～

2.3.3 その他

今回の大会はオンラインであることを活かし、下記のような取り組みを行った。これらは大会終了後も一定の期間利用可能である。

- ・予稿集のPOD（プリントオンデマンド）委託
- ・動画発表の視聴
- ・大会当日の講演、口頭発表の録画の視聴
- ・発表資料のダウンロード
- ・企業PR動画の視聴



写真1 予稿集表紙

2.4 講演・講評

2.4.1 基調講演

基調講演に独立行政法人大学入試センター試験問題調査官の水野修治氏を迎え、「大学入学共通テスト新科目「情報Ⅰ」～サンプル問題等とそのねらい～」と題してご講演をいただいた。大学入

学共通テストのサンプル問題について解説いただき、令和4年度から始まる新しい学習指導要領を実践する上での視点など貴重な講演をいただいた。

2.4.2 特別講演

特別講演としてK-12 Computer Science Education Program Manager at Googleの鶴飼佑氏に「コンピュータサイエンスの面白さ、価値」とのテーマでご講演をいただいた。情報教育に携わる者として大切にするべき点など示唆に富んだご助言をいただいた。

2.4.3 講評・講演

講評は、国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発部教育課程調査官、文部科学省初等中等教育局情報教育・外国語教育課情報教育振興室教科調査官、文部科学省初等中等教育局参事官(高等学校教育)付産業教育振興室教科調査官である田崎文晴氏からいただいた。

また、京都精華大学メディア表現学部教授、大阪芸術大学アートサイエンス学科客員教授、文部科学省初等中等教育局視学委員の鹿野利春氏より講演「情報教育のこれまでとこれから」をいただいた。

講評・講演の中で、次期学習指導要領の実施に向けてのご助言や、研修やコンテンツ等の多岐にわたる情報のご提示をいただいた。

2.5 閉会行事

閉会行事では全国高等学校情報教育研究会会長福原利信氏の大会宣言をいただき、最後に同副会長神奈川県立横浜立野高等学校校長 菊地勇人氏の閉会宣言で大会の幕を閉じた。

2.6 大会宣言

『情報Ⅰ、情報Ⅱの授業が、全国の高等学校で新学習指導要領に基づき円滑に実施されることに協力をしてまいります。また、「令和7年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テスト実施大綱の予告」(令和3年7月30日付 3文科高第471号)で発表のとおり教科「情報」の「情報Ⅰ」試験実施が発表されました。様々な意見があることを理解した上で、教科「情報」に関わる教育委員会、教員養成大学、高等学校教員等と協力して、令和

7年度大学入学共通テストでの確実な実施が出来るよう、積極的に活動を推進してまいります。

大学入学共通テストを利用する、国公立大学、私立大学等の多くの学部・学科が、「情報Ⅰ」の試験を入学者選抜に活用されることを期待します。』

3. おわりに

コロナの影響により前年(2020年)の第13回愛知大会がオンライン開催となり、例年とは異なる環境の中で第14回大阪大会の開催準備を進めることとなった。当初は大阪芸術大学短期大学部の伊丹キャンパスを会場とし準備をしていたが、緊急事態宣言の発令などにより、残念ながら2021年もオンラインでの開催となった。

このような状況ではあったが、新学習指導要領や大学入学共通テストの新科目「情報Ⅰ」等に関するご講演や情報教育全般に関するご助言、また数多くの研究発表・実践報告等、今後の情報教育をすすめる上で重要となる情報を、全国の先生方や関係者の皆様と共有できる有意義な場であった。

最後に、コロナ禍の影響等で大会全般にわたり、参加者の皆様にはご心配、ご面倒をおかけし、また発表者の皆様にはウェビナーの打ち合わせや、発表動画の作成など例年にないご負担をおかけした。しかしながら、参加者・発表者の皆様、および講師の先生方、後援・協賛いただいた各団体・企業の皆様、大会運営の実行委員の方々など、多くの方のご協力のおかげで大阪大会を無事開会・閉会することができた。感謝の気持ちでいっぱいである。

来年度も、オンラインでの開催予定となっているが、状況が落ち着き現地開催できることを願っている。

参考URL

全国高等学校情報教育研究会Webページ
<https://www.zenkojoken.jp>